

特集

9月21日は世界アルツハイマーデー

9月は世界アルツハイマー月間です

世界アルツハイマーデー・月間は認知症に関わる全ての人のものです。この機会を利用して、認知症への理解を深め、認知症になっても安心して暮らせる社会づくりに参加ください。



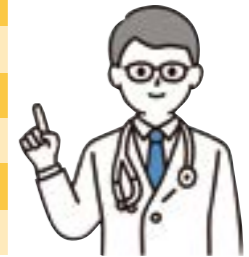
▲世界アルツハイマー月間にあわせて、みやま市立図書館に認知症の関連書籍やパンフレットなどを展示しています。(9月23日まで)

認知症とは

認知症とは、記憶や思考の能力が低下して、社会生活や日常生活に支障をきたした状態のことです。認知症の進行の仕方や症状は、認知症の種類や周囲の対応の仕方、個人の特性などにより異なります。「今までと違う」「なんか変だな」といった違和感を持ったときは、その変化を見逃さないようにしましょう。下のチェックシートに1つでも思い当たる場合は、かかりつけ医や地域包括支援センターに相談ください。

認知症チェックシート

- 5分前に聞いた話を思い出せないことがある。
- ものをなくしてしまうことが多くなり、いつも探し物をしている。
- 財布や通帳など大切なものをなくすことがある。
- 曜日や日時を何度も確認しないと忘れてしまう。
- 季節や状況に合った服を自分で選ぶことができない。
- 薬の飲み忘れや、飲んだかどうか分からなくなる。
- 計算やお金の勘定ができなくなった。
- テレビのリモコンや洗濯機などの家電製品の操作がうまくできない。
- 料理や片付けがうまくできなくなった。
- イライラして怒りっぽくなった。
- 1人であるのが不安になったり、外出するのがおっくうになった。
- 今まで楽しめていた趣味や娯楽が楽しめなくなった。



認知症は早期受診・早期発見が大切です

認知症になる一歩手前の予備軍の状態のことをMCI (軽度認知障害)と言います。「物忘れはするが、日常生活には大きな支障はない」という状態です。MCI (軽度認知障害)の段階で発見することができれば、認知機能の回復・維持が期待できます。早期発見には以下の4つのメリットもあります。



- 早期治療で改善も期待できる
認知症の原因はさまざまですが、早期に治療を始めることで治る認知症もあります。認知症と似た症状が出る病気もあるため、治療をすることで改善する場合があります。
- 進行を遅らせることができる
認知症の症状が進む前に、内服薬やリハビリテーションなど、適切な治療を受けることで、状態を維持したり、進行を緩やかにすることができる場合があります。
- 適切な対応をすることで症状が和らぐ
認知症の症状に応じた適切な関わり方や本人が心地良いと感じる環境を整えることで、症状が緩和したり、落ち着いたりします。
- 事前にさまざまな準備ができる
早期発見によって、症状が軽いうちに本人や家族が話し合い、今後の治療方針を決めたり、利用できる制度やサービスを調べるなど、「認知症に向き合うための準備」を整えることができます。

認知症のことで悩んだら、まずは相談しましょう

みやま市地域包括支援センターでは、認知症の人やその家族から、相談を受けたり、地域の支援機関と連携を図ったりする認知症地域支援推進員が在籍しています。「最近物忘れがひどくなっている」「認知症の人への対応の仕方で悩んでいる」など、何かありましたら、みやま市地域包括支援センターに相談ください。

認知症・高齢者相談会

認知症に関する相談に地域包括支援センターの専門職が応じます。相談は無料です。

- 日時 毎月第3水曜
午後1時30分～3時30分(予約優先)
- 場所 みやま市役所 地域包括支援センター
- 電話番号 (Tel.64-1516)

認知症初期集中支援チーム

本人に物忘れの自覚がある場合でも、認知症に対する不安から、受診や介護サービスを拒否する場合も少なくありません。そのような場合に、本人・家族と関係を築きながら、早期発見・早期対応に向け支援を行う認知症初期集中支援チームを設置しています。認知症初期集中支援チームは、医師や看護師、社会福祉士などで構成される専門家チームです。認知症の人(認知症の疑いがある人)やその家族を訪問し、本人・家族と関係を築きながら、医療機関受診や介護サービス利用につなげていきます。

対象者
40歳以上で、自宅で生活している、認知症の人や認知症の疑いがある人、認知症の症状で困っている人
相談先
みやま市地域包括支援センター
(Tel.64-1516)
みやま市認知症初期集中支援チーム
(Tel.62-4161)



認知症初期集中支援チームのみなさん

みやま市の認知症早期発見・早期対応のための体制

